

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもアシスト「ぼの」大門教室			
○保護者評価実施期間	2026年1月28日		～	2026年2月14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○従業者評価実施期間	2026年1月28日		～	2026年2月14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	8名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月14日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者一人ひとりのことを十分理解し、利用者とその保護者のニーズや課題が客観的に分析されたうえで、個別支援計画作成されている。	日々の支援での様子と保護者のニーズを踏まえた支援計画の作成を行うよう意識している。また、できるだけ具体的な目標設定を意識して作成を行なっている。	職員の意見、保護者のニーズの聞き取りは定期的を実施し、半年ごとだけではなく短い機関でも利用者の変化を見られるようにしていく。
2	よりよい支援が提供できるような空間づくりを意識している。	学習の支援、その他の活動のどちらかが快適にできるようなレイアウトを考え、臨機応変に変更できるようにしている。	教材を充実させるなど、空間だけでなく環境や設備などを常に新しくしていくことで、よりよい支援につながると考える。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がないこと。	1時間の学習支援のため、基本的には事業所から出ることがない。 また学習支援のニーズがあるため、その他のイベントの開催へのハードルが高い。	外部のイベントに参加することで交流が増やせると考えるため、イベント参加に向けて検討していく必要がある。
2	保護者会などの保護者同士交流の機会が少ない。	保護会を開催した経験がなく、需要も把握できていない。 年に数回開催される特別教室の保護者見学は可能であるが、そのことを周知できていない。	特別教室開催時には保護者交流の希望を伺い、必要に応じて機会を作っていく必要がある。
3	家族も参加できる研修会の開催ができていない。	外部の研修の案内の掲示はしているが、事業所主催の保護者向けへの研修会を開催した経験がなく、講師をできる職員がいない。	外部講師を招くなどして保護者、職員ともに参加できる研修会を開催できるとよさそう。